

第6学年B組 音楽科学習指導案

授業者 大山 光子

研究協力者 吉澤 恭子

1 題材名 ひびき合いを生かして

2 子どもと題材

(1) 子どもについて

歌うことやリコーダーを演奏することが好きな子どもたちである。これまでに、《つばさをください》の二部合唱では、曲想の変化を感じながら盛り上がりを生かして歌う工夫をしたり、《おぼろ月夜》の歌唱では、旋律のもつリズムや流れを生かして歌おうと強弱の工夫をしたりする活動を経験している。また、音の重なりを感じ取る活動としては、《マルセリーノの歌》でリコーダーの旋律と低音での伴奏の響きの組み合わせを楽しんできている。

(2) 題材について

本題材では、子どもたちが、音の重なりから生まれる豊かな響きを感じ取り、楽器で演奏することを通して、仲間と共に表現する喜びを味わうことを大切にしたい。自分と周囲との音の響き合いから生み出される音楽のよさにたつぷりと浸ることができるであろう。

鑑賞曲《カノン》(パッヘルベル作曲)は、子どもたちの誰もがどこかで耳にしたことがあるなじみ深い曲である。一貫して反復される通奏低音の上で、先行する一声部の主題を、他声部の応答が一定の間隔をおいてそのまま正確に模倣する手法により構成されており、簡潔な構造であるにもかかわらず、その旋律の音の重なり、和声の響きがとても美しい楽曲である。カノン形式の構造も、子どもたちにとって分かりやすいものと考えられる。

《カノン》(パッヘルベル作曲・東山正流編曲)は、子どもたちがリコーダーや鍵盤ハーモニカで、無理なく演奏できるようにハ長調に変えた器楽合奏曲である。ゆったりとしたテンポの中で、音符がだんだん細かくなったり音の重なりが厚くなったりすることにより、曲想が変化し、気分の高揚が引き起こされる。曲のクライマックスに向かって、盛り上げていくなど強弱の工夫をすることもできる。また、各パートが同じ旋律を演奏するので、子どもにとっては他のパートの演奏を意識しやすく、全体の音も聴きやすくなると思われる。

鑑賞したり演奏したりする活動を通して、カノンの特徴に気付き、そこから生み出される音の響き合いを感じ取る力を育てたい。そして、自分の奏でる音を聴き、周囲との音の響き合いを楽しみながら演奏をつくり上げる子どもたちの姿を期待して、本題材を設定した。

(3) 指導について

本題材の新たな価値は、音の重なりや和声の響きに着目し、自分と他との音の響き合いから生まれる美しさや心地よさに気付き、それを生かし自分の音と他の音を重ねていくという「見方・考え方」を働かせて、友達と演奏する楽しさを味わうことである。鑑賞を通して知覚、感受したことを大切に、子どもたちが音楽的要素をふまえた思考をする学習活動を、題材を通して位置付けていきたい。カノン形式についても、一定の間隔を変えて演奏することで、響き合いの美しさや心地よさを実感させることにつなげていきたい。また、感じ取ったことを共有しながら表現に生かしていく力を育てていきたい。

題材の導入では、《カノン》を鑑賞する。この作品が生まれた時代背景や作曲家などにもふれながら、楽譜を見て視覚的にもカノン形式の構造を確かめていくことで、多声的な音の重なりやそれらの働きから生まれる音楽のよさを味わわせたい。楽譜を見て理解することで、音楽の縦と横の関係に気付くこともでき、曲をとらえる視点の幅も広がるのではないかと考える。器楽合奏では、自分はこういう音を出してみたい、こういう表現をしてみたいと考えることを大切に、リコーダーによる三声部の合奏に取り組み、音の重なりから生まれる響きを意識した演奏活動にしていきたい。また、リコーダーに苦手意識をもっている子どもには、運指が容易になるように楽譜を書き換えるなどの配慮をする。一人一人が合奏する仲間の一員として演奏に参加できたとき、大きな達成感を味わうことができるはずである。仲間と共に生き生きと表現活動に取り組む子どもたちの姿を期待したい。

3 題材の目標<記号は本校の資質・能力表による>

- (1) 自分と周囲が奏でる響き合いの美しさや心地よさを味わいながら、よりよい音楽表現を目指して音楽活動をしようとする。 <ア・ケ>
- (2) 音の重なりや響き合いの美しさを感じ取り、和音の重なり効果を生かしながら表現を工夫する。 <A-21・[共通事項] 1c(ア)(イ)・シ>
- (3) フレーズのまとまりや音色、音の重なりや響き合いを感じ取り、全体的なバランスに気を付けて演奏することができる。 <A-24・29・イ>
- (4) 音の重なりや和声の響き、反復や変化を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さを理解しながら聴くことができる。 <B-7・[共通事項] 1c(ア)(イ)・セ>

4 題材の構想 (総時数 4 時間)

時間	学習活動	教師の主な支援	評価 <本校の資質・能力との関連>
1	(1) 旋律の反復や音の重なりに気付きながら、鑑曲《カノン》パッヘルベル作曲を聴く。	・ 旋律の繰り返しや各声部の音の重なりなど、曲の構成を確かめながら聴くことができるように、拡大楽譜を活用する。	・ 旋律の繰り返しや重なりに気付き、そのよさやおもしろさを感じ取りながら曲全体の構成を理解して聴いている。 <B-7・[共通事項] 1c(ア)(イ)・セ>
2	(2) 器楽合奏曲《カノン》の特徴をとらえて、リコーダーで演奏する。	・ 曲想にふさわしい音で演奏できるように、音色に気を付けてフレーズのまとまりを意識してなめらかに吹くように助言する。	・ フレーズのまとまりや音色に気を付けて演奏している。 <A-24>
3 本時	(3) 《カノン》の特徴を理解し、音の重なりを生かして演奏する。	・ 美しい響きに気付くことができるように、2小節間隔、4小節間隔で演奏する場を設定する。	・ 音の重なりや響き合いの美しさ意味を理解し、音の重なりや響き合いを意識しながら表現する。 <A-21・[共通事項] 1c(ア)(イ)・シ>
4	(4) 互いの音を聴き合いながら器楽合奏曲《カノン》を演奏する。	・ 全員が全曲を演奏できるように、演奏技能に合わせた楽譜を複数用意する。	・ 自分の音と他パートとの音の重なり、響き合いを感じ取り、全体的なバランスに気を付けて演奏している。 <A-29・イ・ケ>

5 本時の実際 本時（3／4）

(1) ねらい

様々な間隔をあけてカノンを演奏する活動を通して、音の重なりから生じる美しい響きを見出し、響きのよさを感じながら表現することができる。

(2) 展開

○：「仲間との対話」を通して新たな価値を創造するための手立て

時間	学習活動	教師の支援 評価
5分	① 《カノン》を全員で演奏する。	<ul style="list-style-type: none"> 《カノン》の曲想にふさわしい音で演奏できるように、フレーズのまとまりを意識してなめらかに吹くように助言する。
5分	② 前時の学習を振り返り、本時の学習課題を確かめる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> 学習課題 どこから追いかけると、美しい響きが生まれるのか。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> 前時でとらえたカノンの特徴を確認する。 前時の振り返りから、どのくらいの間隔をあけて演奏を始めればよいのか、課題を引き出す。
25分	③ 《カノン》を演奏し、美しい響きの音の重なり方を試す。 <ul style="list-style-type: none"> 2小節の間隔をあけて演奏するとき 【自分との対話】【仲間との対話】 (予想される子どもの反応) <ul style="list-style-type: none"> なんだかおかしいな。 音が合っていない感じがする。 間違っているのでは。 伴奏と合わないな <ul style="list-style-type: none"> 4小節の間隔をあけて演奏するとき 【自分との対話】【仲間との対話】 (予想される子どもの反応) <ul style="list-style-type: none"> 今度はきれいだな。 きれいにハモっている。 音に深みが出てきた。 音が厚くなった。 	<ul style="list-style-type: none"> 響きの違いに気付くことができるように演奏する側と聴く側に分けて活動する。 ○ 4小節の間隔をあけて演奏する響きのよさに気付くことができるように、初めに2小節の間隔をあけて演奏する場をもつ。 ○ 2つの演奏での響きの違いについて、音の重なりに着目して話すことができるように拡大楽譜を用意し、和音を取り上げて確認する。 <ul style="list-style-type: none"> 音の重なりが実感できるように、和音をキーボードで確かめる。 《カノン》は、4小節のまとまりでできていることに目を向けることができるように、4小節単位を繰り返す伴奏パートの楽譜を提示する。
10分	④ カノンの音の重なりを味わって演奏し、本時の学習をふり返る。	<ul style="list-style-type: none"> カノンの和声の響きの美しさを感じ取ることができるように、三声部での演奏に取り組み、次時への意欲付けを図る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 4小節の間隔をあけて演奏する意味を理解し、響きのよさを感じながら表現している。 <A-21・[共通事項] 1c (ア)(イ)・シ> (演奏・発言) </div>

(3) 「仲間との対話」を通して新たな価値を創造する子どもの姿

